

書 評

ポップアップ宇宙

ビッグバンからブラックホールまで

ヒーザー・クーパー, デビッド・ペラム著

村山定男 監修, 西城恵一 訳

(丸善, 定価 3800円, 昭和 61年 11月 15日 発行)

この本のうたい文句は、「3次元でみる宇宙創造のドラマ」ということになっている。3次元, つまり, 最近はやりのポップアップ——飛び出す絵本——で, 宇宙のことをわかりやすく書いた本だ。こういう風にいうと, 受けだけをねらった, たわいもない本のように聞こえるが, 内容はなかなか濃い。

6つのページいや画面は, ビッグバン (宇宙の創世) から始まって, 銀河, 星の誕生, 太陽系, 星の死, 宇宙の最期という内容で構成されており, それぞれが, ポップアップと動かすことのできる部品, してとじ込まれた説明文からなっている。この中の, おもしろい仕掛けのいくつかをここでも紹介しておこう。

ビッグバンの画面には, ドップラーシフト (銀河のスペクトルのなかの吸収線のずれ) で, 宇宙膨張を計るといふ現代の天文学で最も重要な観測の一つが説明してあ

る。この本の「仕掛」を動かすと, 遠ざかっている銀河からの光は, 吸収線が赤い方に, 近付いているものからは, 青い方にずれて観測される様子が, 再現されている。

銀河のページでは, 画面から飛び出した2つの銀河がお互いの重力で相互作用しあって衝突している様子が示されている。これなど, まさに, ポップアップの手法が生かされ, 実在感をもってしまふ。

印刷物で, 宇宙の興行きを表現する事は非常に難しいが, 我々の住む宇宙は, まさに3次元の空間である。望遠鏡で (光学, 赤外, 電波, X線 etc.) 得られた2次元の情報を, 現実の3次元の姿に組み直す事は, 天文学の1つのキーポイントといえる。そういう意味で, こうしたポップアップで宇宙の事を見せてくれるこの本は, 読者に, 望遠鏡でのぞいたときに見える普通の光でみた姿に, 他の手段で見た情報を加え, それを再構成してより実体に近い宇宙の姿を見せてくれるものとして貴重だといえる。

引き出し式になっている説明も, 最近の天文学の進歩の成果を取り込んで, かつ分かりやすく書かれている。しかし非常に簡潔に書かれているから, 興味を持たれた読者は, さらに詳しい本を読まれるのがよいだろう。

(富阪幸治)

◇ 2月の天文暦 ◇

日	時	分	記	事
2	1	32	水星	留
3	5	51	望	
3	19	28	月	最遠
4	23	43	立春	(太陽黄経 315°)
11	8	1	下弦	
11	13	23	水星	内合
17	18	42	月	最近
18	0	54	朔	
19	7	35	冥王星	留
19	19	35	雨水	(太陽黄経 330°)
23	13	19	水星	留
24	21	15	上弦	

1987年11月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—, —	11	3, 6	21	2, 58
2	—, —	12	4, 9	22	4, 55
3	—, —	13	—, —	23	5, 58
4	—, —	14	1, 10	24	5, 66
5	6, 34	15	—, —	25	6, 38
6	5, 17	16	1, 25	26	5, 31
7	—, —	17	2, 33	27	6, 28
8	5, 19	18	5, 43	28	—, —
9	—, —	19	4, 45	29	—, —
10	4, 13	20	3, 61	30	2, 3

(相対数月平均値: 43.0)

◇ 2月の日月惑星運行図 ◇

